

公立大学法人金沢美術工芸大学

第1期中期目標期間

(平成22年度～平成27年度)

業務実績評価書

平成28年 8月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1~2
1	評価の構成.....	1~2
2	項目別評価.....	1~2
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~9
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した中期計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の4段階の評価区分により、その達成状況を判断理由を付して評価する。

※ 中期計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	中期計画を上回って実施している。
Ⅲ	中期計画を十分に実施している。
Ⅱ	中期計画を十分には実施していない。
Ⅰ	中期計画を実施していない。

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、以下の5段階の区分により達成状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

中期計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評価内容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標の達成状況が良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標の達成状況が概ね良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標の達成状況が不十分である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注) 評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標期間の業務実績全体について記述式により総合的に評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

□ 全体評価

中期計画に定めた全ての項目が着実に実施されており、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標の達成状況が良好である）であり、第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）に係る業務実績に関しては、全体として「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

平成22年度の公立大学法人への移行後、第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）において、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

以下に、大学の特色ある取組や工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 教育の質の向上に関しては、学士課程教育においては専攻にとらわれない多様な芸術表現を学ぶための全学共通の基礎科目として「造形表現工房科目」を、大学院修士課程においても多様な学習需要に応えるため、新たな共通選択科目を開設することにより、特色ある教育を効果的に実施し、また大学院教育課程における教育のさらなる高度化を図る大学院改革の基本構想を作成したこと。
- ・ 研究の質の向上に関しては、伝統工芸の保存、継承を目的とする「平成の百工比照」収集作成事業、柳宗理氏の業績研究等を通して高度な調査研究や地域の特色ある課題に取り組んだほか、アジア各国の研究者との技術交流等を行うとともに中国清華大学美術学院等との交流展を開催し、国内外に向けて積極的に教員の研究成果を発信したこと。
- ・ 社会連携に関しては、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを数多く実践し、その成果を商品化等に繋げたほか、医療分野における芸術の潜在的な可能性を探る金沢市立病院でのホスピタリティアート・プロジェクト、金沢大学との包括協定、北陸先端科学技術大学院大学との包括協定等を通じて他の研究機関等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会へ還元したこと。
- ・ その他業務運営に関しては、大学支援組織である同窓会と合同で展覧会を実施し、連携強化を図るとともに保護者会である成美会に対して大学の近況報告や教員との意見交換を行い、大学への理解と支援を得る努力を重ねたこと。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標の達成状況が良好である。）
-----------	-----------------------------

中期計画記載の33の項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が3項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が30項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 企業、公共団体等の課題を解決するための産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを数多く実践することによって学生が実社会の課題を通して経験を重ねたこと。
- ・ 学士課程教育において学生が専攻にとらわれることなく、多様な芸術表現を学ぶため主体的に選択できる全学共通基礎科目として「造形表現工房科目」を開講したこと。
- ・ 学生の多様な学習需要に対応するため、大学院修士課程の共通選択科目として「現代美術特講」、「言語表現演習」、「映像メディア演習」等を新設し、またさらなる大学院教育の充実を図るため、大学院改革の基本構想を取りまとめたこと。
- ・ 他専攻を含む複数教員による審査・講評を行う合同講評会を実施することにより学生に応じた指導を行い、その内容を「授業研究記録」として記録し、教員間で情報共有することにより授業相互評価の充実を図り、教育改善につなげていること。
- ・ 学生への支援に関しては、修学継続困難者を支援する緊急支援奨学金制度や海外研修活動を支援するワールドワイド奨学金制度等の創設、キャリアアドバイザーによる就職支援説明会や個別就職相談を通じた就職等の支援を行うとともに金沢市と連携協定を締結し、地元企業との就職情報交換会、企業インターンシップ及び地元伝統産業への短期工房派遣実習を行い、県内定着率向上を目指したこと。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である。）
----	---------------------

中期計画記載の 11 の項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が 2 項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が 9 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 伝統工芸の保存、継承を目的とする「平成の百工比照収集作成」事業を通じて染織、金工、漆工、陶磁の各分野において全国から希少な技法工程見本、道具類等の収集、整備を行い、その成果を平成 25 年度「平成の百工比照－美大があつめたものづくりの技と意匠－」展及び平成 27 年度「平成の百工比照－技と素材の一大標本、金沢の工芸振興の系譜－」展において広く公開したこと。
- ・ 世界に通じる芸術の研究拠点を形成するため、アジア工芸作家等研修支援業務を実施し、ミャンマー、台湾、中国、ブータン、マレーシア等の研究者との技術交流、講演会等を開催するとともに中国清華大学美術学院、韓国同徳女子大学等との交流展を行い、教員の研究成果を公開したこと。
- ・ 平成 26 年 3 月に柳宗理記念デザイン研究所を開設し、寄託作品の調査研究を進めたほか、デザイン教育の場として作品展示や講演等で活用したこと。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である。）
----	---------------------

中期計画記載の8項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が4項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 金沢市の都市計画や景観等の施策審議会に教員が参画し、都市計画・まちなみ保全・景観などに関する施策における協働に積極的に取り組んだほか、ユネスコ創造都市ネットワーク会議にあわせて「平成の百工比照—技と素材の一大標本、金沢の工芸振興の系譜—」展を開催し、金沢市の発展と魅力発信の一翼を担ったこと。
- ・ 企業、公共団体等からの依頼により、産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを数多く実践し、実社会の課題を通して経験を重ねる教育を行った結果、事業の成果が商品化や公的機関からの表彰に繋がるなど社会から高い評価を受けることができたこと。
- ・ 医療分野における芸術の潜在的な可能性を探る金沢市立病院でのホスピタリティアート・プロジェクト、金沢大学との包括協定に基づく医薬保健学域の基礎配属生の受け入れ、理工系ものづくり実践プロジェクト等の実施、さらには北陸先端科学技術大学院大学と包括協定を締結するなど、研究機関等との連携を強化したこと。
- ・ 地元商店街の空き店舗を改装して、多目的展示スペースである「アートベース石引」を開設し、専攻の成果報告会や学生のグループ展等を行い、商店街を含めた地域の活性化に貢献したこと。
- ・ ニューヨーク州立大学バッファロー校（アメリカ）、ナンシー国立高等美術学校（フランス）及びナント市圏高等美術学校（フランス）と新たに交流協定を締結し、教員及び学生の相互派遣を実施したこと。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標の達成状況が良好である。）
-----------	-----------------------------

中期計画記載の 12 項目のうち全てがⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 大学運営を効果的かつ効率的に推進するため、専門性の高い業務について法人職員採用計画を策定し、市派遣職員から法人採用職員への切り替えを実施したこと。
- ・ 教職員の外国語能力向上を目的とした外国語研修支援制度を創設したほか、公立大学協会等が開催する職員セミナー、法人会計セミナーなどの研修に職員を派遣し、教職員の能力開発や専門性の向上を図ったこと。
- ・ 教員の活動内容や目標設定の状況を把握し負担度や貢献度を評価する目的で、教員評価制度を制定し、各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の活動項目の中から目標を設定し、教員自身による 1 次評価と学長による 2 次評価を行ったこと。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A （中期目標の達成状況が良好である。）
-----------	-----------------------------

中期計画記載の 10 項目のうち、全てがⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 大学の特性を生かした独自の自己財源増加策として広く市民・企業からの

寄附を募るために、新たに「かなびサポーター」制度を創設したこと。

- ・ 効率的な予算執行を進めるため、インターネットによる物品購入を行ったほか、重複投資を防ぐために大型備品については学内での共同利用を推進したこと。
- ・ 資産の効果的な活用を図るため、大学所有の美術品については学内外の展覧会等で公開するとともに全所蔵品のデータベースを作成し、ホームページ上で公開したこと。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A （中期目標の達成状況が良好である。）
-----------	-----------------------------

中期計画記載の5項目のうち、全てがⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 自己点検・評価実施運営会議の構成員として教育研究審議会及び教授会の双方から委員を選出することにより全学的な自己点検・評価体制を整えた上で、自己点検・評価を行い、公益財団法人大学基準協会による認証評価において大学評価基準の適合判定を受けたこと。
- ・ 大学の統一した視覚イメージを定めたV I（ビジュアル・アイデンティティ）計画を策定し、広報活動に反映させたこと。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である。）
----	---------------------

中期計画記載の10項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が1項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が9項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパス基本構想検討委員会を発足させ、「金沢美術工芸大学新キャンパス構想」として取りまとめ、設立団体の長（市長）に報告したこと。
- ・ 大学支援組織との連携強化を図るため、同窓会と共同で東京銀座・金沢・ニューヨークで展覧会を開催するとともに卒業生・修了生の発表活動を支援するため、問屋町スタジオにおいて協同組合金沢問屋センターとの連携により、展覧会を開催したこと。
- ・ 危機管理体制の充実・強化を図るために「危機管理基本マニュアル」、「震災対応マニュアル」等を作成し、それらを基に全学的な防災訓練を実施したこと。